

# 第一次推進計画の成果と課題

## 1 成果

### (1) 家庭・地域・学校等における子ども読書活動の推進

本との出会い、読書の楽しみを体験するため、子育て期における乳幼児の段階から、各年代ごとに応じて本にふれあうための環境づくりに努めました。

#### ◆ ブックスタートの取組

乳児と保護者が絵本を通して楽しい時間を過ごすとともに、豊かな心を育て親子の絆を養うブックスタート事業に平成18年度から本格的に取り組み、参加率が増加しました。

#### ◆ おはなし会の実施

子どもにとっての読書の大切さや有用性を保護者（大人）が認識することが重要であることから、公民館や市立図書館、青少年課所管の「子どもの家」等でのおはなし会を実施しました。

子どもの発達段階に応じたおはなし会で絵本やわらべ歌についての関心を抱いたり、人形劇や映画会等のイベントで作品に出会うことで、原作に興味を持てるような取組を行いました。

#### ◆ ボランティアの養成と機会拡充の取組

読み聞かせ等の講習会によって、読み聞かせの技能を高め、多くの子どもたちが本の楽しさを味わえる機会が増えました。また、講習会で学んだことは市立図書館や学校図書館等でいかしていただいています。子どもたちを対象とした1日図書館員等の職場体験も行いました。

#### ◆ 啓発冊子の配布

図書館機関紙に加え、子ども向けの図書館機関紙やホームページを利用した情報発信を通して、子どもや保護者、地域の方が本に興味を抱いたり、読書の幅を広げられるよう取り組みました。

### (2) 施設等の環境整備、関係機関の連携・協力

読書活動を推進する上での蔵書の充実や配架等の工夫、また、良質な教育（サービス）を提供するための職員の養成や派遣、人力的な配置を進めました。

#### ◆ 蔵書等の管理充実

小・中学校における学校図書館の蔵書については、データベース化を行いました。市立図書館では、外国籍の子ども、障がいのある子どもへの読書環境の充実に取り組み、蔵書の種類も絵本からヤングアダルトまでを揃えるよう努めました。

◆ 人員の配置、研修体制の充実

全小・中学校の学校図書館に学校司書（サン・サンスタッフ）を配置することをめざし取り組みました。実際に学校司書（サン・サンスタッフ）が配置された学校では、児童・生徒が学校図書館を利用する回数が増えたり、蔵書の管理等、児童・生徒の利用しやすい環境づくりが進むなどの効果が見られます。また、学校全体として、担当教員を対象に学校図書館を活用するための研修等も行いました。

◆ 子ども読書活動推進協議会の設立

読書を通じて子どもたちの健やかな成長を支援するために、子どもが読書に親しむことのできる環境づくりや機会の提供などを目指し、15の全中学校区に子ども読書活動推進協議会を設立しました。協議会は、学校・図書館・ボランティアグループ・地域の団体などで構成され、地域の特性や子どもの発達段階に応じて、学校や地域で活動しています。

◆ ボランティアグループへの講師派遣

子ども読書活動推進協議会やその他の団体への支援として、読み聞かせや本の修繕等の講師派遣を行いました。

(3) 子ども読書活動の普及・啓発

平塚市では「子ども読書の日（毎年4月23日）」に合わせて、おはなし会や展示等の各種PRを行いました。

◆ 平塚市子ども読書活動推進フォーラムの開催

平成19年度から市民と行政の協働による「平塚市子ども読書活動推進フォーラム」を年1回開催し、絵本作家による講演会や絵本ライブを通し、読書活動の重要性を啓発しました。

## 2 第二次推進計画に引き継ぐ主な課題

◆ 就学前の子どもに「読み聞かせ」を行うことは、学ぶ力の基礎である「聞く力」「物事を吸収する力」を育成する上で大切なことです。本を通して大人と子どものふれあいを促進し、小さなころからの読書習慣の形成に向けた取組が必要です。

◆ 全15中学校区で「子ども読書活動推進協議会」を設立しましたが、取組状況が様々です。すでに図書ボランティアとして活動している方への支援、これから活動を行おうとしている方への支援等、包括的な支援が必要です。

◆ 学校司書（サン・サンスタッフ）の全校配置に向けた取組と、教育活動における学校司書（サン・サンスタッフ）を活用した取組、図書ボランティアを含めた学校図書館に関わる方々との協力体制の構築が必要です。

- ◆ 児童・生徒が主体的、意欲的に学習活動や読書活動を行えるよう、学校図書館の機能のさらなる充実・活性化に向けた取組が必要です。
- ◆ 子どもたちが身近な場所で読書活動を行える仕組みづくりが必要です。